

# 葛南教育事務所だより



千葉県教育庁葛南教育事務所  
〒273-0012 船橋市浜町2-5-1  
Tel 047-433-6017 Fax 047-433-3169



【指導室 学力向上班】

## 令和5年度葛南教育事務所管内「学力向上交流会」

学力向上交流会は、千葉県の学力向上月間である11月を中心に「ちばっ子『学力向上』総合プラン（学びの未来づくりダブル・アクション+ONE）」の一環として、開催しています。今年度も、オンラインによる開催としました。

オンラインによる学力向上交流会は、動画視聴のオンデマンド型全体会と、オンライン会議システムを用いた分科会による2部構成となっています。

オンデマンド型全体会では、県の教育施策等に関する説明動画と「ちばっ子の学び変革」推進事業検証協力校の紹介動画を視聴していただきました。現在も県の教育施策等に関する説明動画は、どなたでも視聴可能となっています。「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」や全国学力・学習状況調査を活用した授業改善について具体的に解説しており、明日からの教育活動に生かすことができる内容となっています。是非、右記のURL 又は二次元コードからアクセスしていただき、ご覧ください。

### 【全体会 YouTube 動画】

<https://youtu.be/ElmSqOY0UjA>



分科会は、オンライン会議システム（Zoom ミーティング）を用いて、11月13日（月）に行いました。8つの分科会に分かれ、優れた実践に取り組んでいる各市の先生方が提案を行いました。開催市である市川市は4つの分科会を担当しました。また、Zoom ミーティングのブレイクアウトセッション機能を用いた小グループ討議も行い、参加者同士の意見交流も行うことができました。

参加者アンケートでいただいた感想・意見をいくつか紹介します。

- ・提案者の取組がすばらしいと思いました。
- ・他校種の先生と意見交流できたのが有意義でした。
- ・他市の取組を知ることができて、大変勉強になりました。
- ・主体的・対話的で深い学びを目指し、自校で情報を共有し授業改善につなげていきたいです。
- ・小グループでの討議にもっと時間をかけたかったです。
- ・オンラインの開催で、学級を空けることもなくありがたかったです。
- ・実際の授業を見て協議できると嬉しいです。

いただいた感想・意見を基に、今後も工夫・改善を重ね、学力向上交流会を更に充実させたいと思います。葛南教育事務所指導室では、「葛南スタイル」で「葛南スマイル」による授業改善をすすめ、学力向上に向け「葛南プライド」をもって取り組んでいきます。

## 令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の概要について

【指導室 生徒指導班】

本調査は、児童生徒の生徒指導上の諸課題の現状を把握し、今後の施策の推進を目的に毎年実施されている文部科学省所管の統計調査です。

本概要は、暴力行為、いじめ、長期欠席、公立高等学校の中途退学、自殺に関する令和4年度調査の本県分（千葉市を含む公立学校）を取りまとめたものです。千葉県ホームページに掲載されていますので、下記リンクまたは二次元コードよりご覧ください。

[令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の概要／千葉県 \(chiba.lg.jp\)](http://chiba.lg.jp)



ここでは、本概要を基に調査結果についてお知らせします。

■ 調査対象期間 令和4年4月1日から令和5年3月31日までの1年間

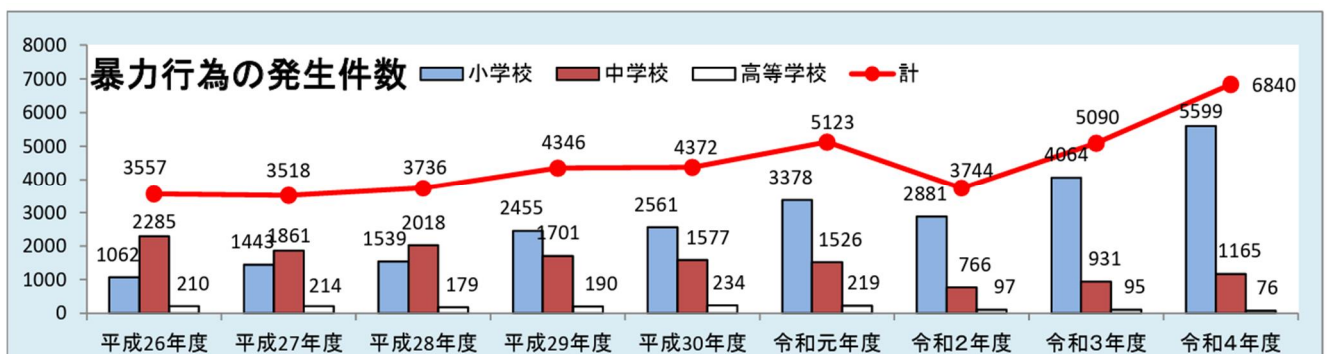
■ 主な調査結果の前年度比較

調査項目	令和4年度	令和3年度	増減
① 暴力行為の発生件数	6,840件	5,090件	1,750件増加
② いじめの認知件数	52,720件	51,478件	1,242件増加
③ 不登校児童・生徒数（小・中学校）	12,082人	9,951人	2,131人増加
④ 不登校生徒数（高等学校）	2,816人	2,270人	546人増加
⑤ 中途退学者数	859人	909人	50人減少

※各調査項目の調査対象は、以下のとおりである。

- ・項目①は、県内全公立小・中・義務教育・中等教育・高等学校。
- ・項目②は、県内全公立小・中・義務教育・中等教育・高等学校・特別支援学校。
- ・項目③は、県内全公立小・中・義務教育・中等教育学校。
- ・項目④・⑤は、県内全公立高等学校。

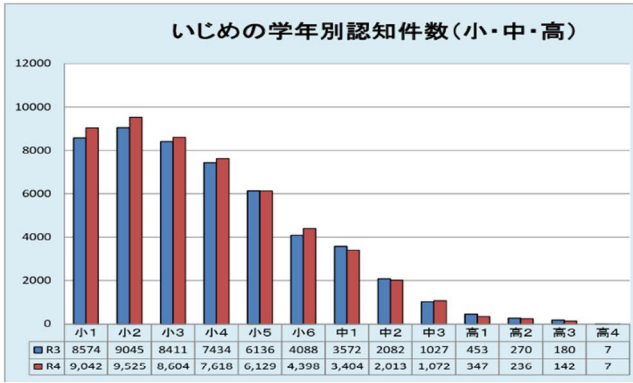
### 1 暴力行為



小・中・高等学校における暴力行為の発生件数を校種別に見ると、小学校と中学校は前年度より増加し、高等学校は減少しました。

※暴力行為の定義（平成19年度一部改訂）

「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」をいう。家族・同居人に対する暴力行為は、調査対象外とする。



いじめの発見のきっかけ (単位:件)

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
学校の教職員等が発見	35,622	4,058	517	149	40,346
内訳					
学級担任	3,574	603	39	41	4,257
学級担任以外の教職員	228	201	13	0	442
養護教諭	39	18	12	0	69
スクールカウンセラー等	71	19	0	0	90
アンケート調査など	31,710	3,217	453	108	35,488
学校の教職員以外からの情報により発見	9,694	2,431	215	34	12,374
内訳					
本人からの訴え	6,261	1,514	147	22	7,944
当該児童生徒の保護者	2,493	536	45	6	3,080
児童生徒(本人を除く)	652	277	21	6	956
保護者(本人の保護者を除く)	250	81	2	0	333
地域の住民	6	6	0	0	12
学校以外の関係機関	23	0	0	0	23
その他(匿名による投書など)	9	17	0	0	26
計	45,316	6,489	732	183	52,720

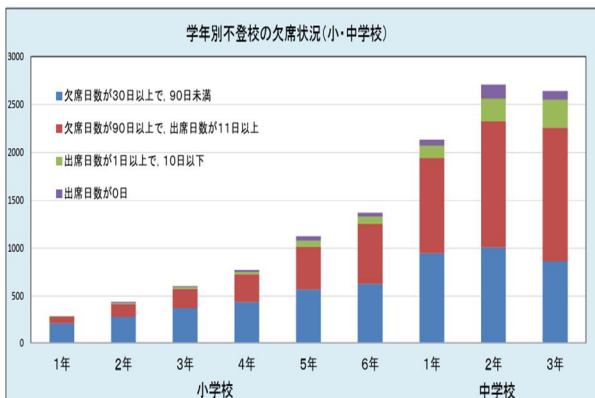
## 2 いじめ

小・中・高・特別支援学校におけるいじめの認知件数の学年別認知件数は、小学校2年生をピークに学年が上がるにつれて減少しています。また、いじめの発見のきっかけは、全校種で「アンケート調査など」が最も高くなっています。

※いじめの定義(平成25年度一部改訂)

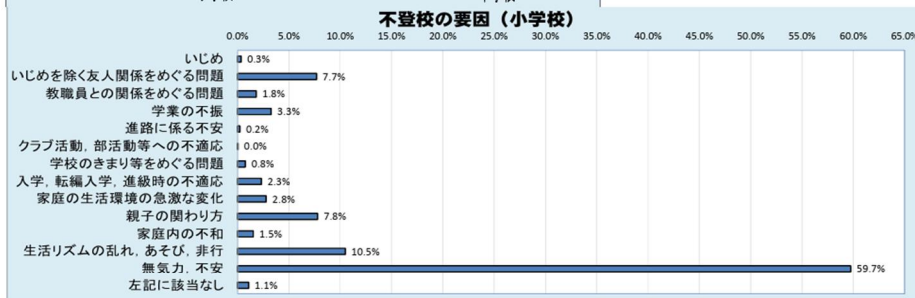
「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

## 3 公立小・中学校の不登校



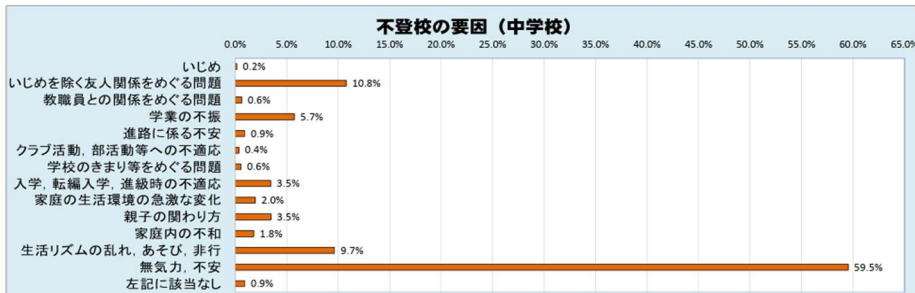
小・中学校の不登校児童・生徒数を校種別に見ると、小学校における不登校児童数は、4,600人で、前年度の3,583人より1,017人増加しています。中学校における不登校児童数は、7,482人で前年度の6,368人より1,114人増加しています。学年別に見ると、不登校児童・生徒数は、小学校1年生から中学校2年生まで学年が上がるにつれて増加しています。

次に、不登校の要因についてです。小学校の不登校



校の要因のうち上位3つは、①「無気力・不安」、②「生活リズムの乱れ・あそび・非行」、③「親子の関わり方」でした。

中学校の不登校の要因のうち上位3つは、①「無気力・不安」、②「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、③「生活リズムの乱れ・あそび・非行」でした。



※令和4年度に通算して30日以上欠席した児童・生徒のうち「不登校」を理由とする児童・生徒数を不登校児童・生徒数とする。

※「不登校」には、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的理由」、「新型コロナウイルスの感染回避」による者を除く。)を計上。



## ユニバーサルデザインの視点を踏まえた「学びやすさ」の構築 行動の背景を考えよう③

【指導室 特別支援教育班】



今回も、教室にいる「気になる子供の行動について、その特性や要因を踏まえて支援を講じる」です。気になる子供の学び方の特性や行動の要因が分かると、個に応じた支援（二次支援）が考えやすくなります。今回も、全体の中でできる一次支援、二次支援、三次支援の具体例も紹介します。

### 例 黒板の文字をノートに書いたり、音読をしたりするのに苦労している。

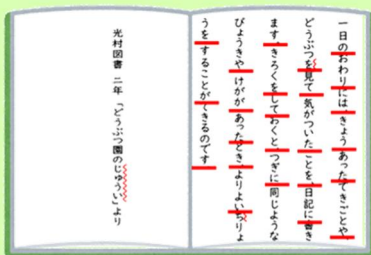


- ・ 教室内の掲示や周りの友達の様子が気になってしまうのかもしれない。
- ・ 視線を移動させて書いたり読んだりするのが苦手で、焦点を合わせているうちにどこを書いているか（読んでいるか）分からなくなるのかもしれない。
- ・ 見たものを覚えておくことが難しく、何度も黒板を見る必要があり、書き写すのに時間がかかるのかもしれない。
- ・ 文字が揺らいで見えたりにじんで見えたりしているのかもしれない。

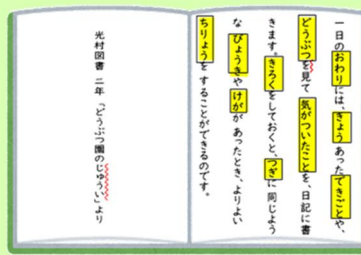
### ユニバーサルな支援（一次支援・二次支援）

- 対応例 1：黒板周りは物をなくし、棚には目隠しカーテンをするなど、集中しやすい環境をつくる。
- 対応例 2：板書の文字は適度な大きさで、行間をあげ、見やすさを意識して書く。
- 対応例 3：強調したいところは注意をひきやすいように枠で囲む。
- 対応例 4：子供のノートのマス目の数に合わせて板書の文字を折り返す。
- 対応例 5：事前に板書用の短冊を用意し、教師が書く時間を減らし、子供が書く時間を確保する。
- 対応例 6：いろいろな種類のプリントを準備する（穴埋め・ヒントがついている・線が入っている等）。

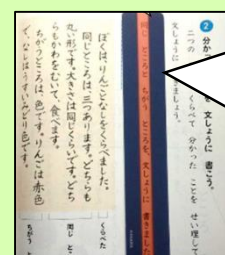
### 全体の中の個別の配慮（三次支援）



文節を線で区切る



単語をマーカーで塗る



読書用スリット

前後の行を隠して読みながら読み進めることができます。



ICT 機器の利用（板書の撮影）

撮影した板書を手に置いてノートに書いて保存したりします。



音声教材の利用  
（デジタル教科書等）

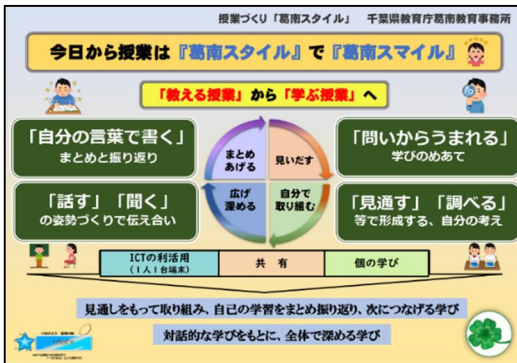
- ・ 文字・音声・画像を同時に再生する。
- ・ 音声で読み上げる部分の文字がハイライトされる。
- ・ 読むスピードを変えることができる。
- ・ 文字の大きさ・文字色・背景を変えることができる。

### Point !

- ・ 「分かった」という達成感を一緒に喜び、苦手意識が積み重ならないように配慮します。
- ・ 個別の支援をする場合は、本人・保護者の同意と周囲の理解が大切です。
- ・ 多様性を認め合えるクラスの雰囲気づくりを大事にしましょう。

# 「教える授業」から「学ぶ授業」へ【ICT活用】

【指導室】



今年度、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を基に、葛南教育事務所「授業づくり『葛南スタイル』」を作成しました。「葛南スタイル」では、教師が「教える授業」から子供が「学ぶ授業」へ転換することを目標に、【4つの場面】ごとにキーワードでまとめています。今回は、「葛南スタイル」の中の「ICTの利活用」に焦点化してお伝えします。



葛南スタイル

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(令和3年 中教審答申)では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることを目指しています。「個別最適な学び」は「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理され、特に「学習の個性化」において、子供によって特性や理解度、学習過程がそれぞれ異なり、一人一人に合わせていくために1人1台端末が有効に機能します。また、子供の学習状況を見える化し、友達の考えを参照しながら学びを深めていく「協働的な学び」を充実させるためにも端末の活用が期待されます。



令和答申【概要】

ここでICTの活用段階を示した「SAMR (セイマー) モデル」(Ruben R. Puentedura 2010)を紹介します。SAMRモデルには「S (代替)」「A (拡張)」「M (変革)」「R (再定義)」の4つの段階があります。例えば、【見いだす】場面で、プレゼンテーションソフト等を使って、大型提示装置に映して使用することは、黒板でできたことを代替しているため、S (代替)と言えます。また、【広げ深める】場面で、学習支援ソフト等を活用してクラス全員の考えを共有したり、1つのファイルを共有して共同編集したりすることは、単なる置き換えではなく、ICTの特性を生かしているためA (拡張)の段階です。しかし、先述の答申の考え方からすれば、さらにM (変革)、R (再定義)の段階に進むことが求められています。例えば、次時で使う授業の資料や動画等を学習支援ソフト上で配付し、事前に確認・視聴の上で、授業では対話や協働学習等を中心に行う反転学習や、個人で作成したスライドやレポート等に対し、コメント機能を使って子供たちが相互にフィードバックすることがM (変革)、R (再定義)の段階と言えます。



SAMRモデル

学校訪問等で授業を参観させていただくと、多くの学校でS、A段階でのICT活用に取り組んでいます。今後はM、R段階へと進み、学びのDX (デジタルトランスフォーメーション)を進めてください。そのために、まずは、「端末を『使う』『使わない』を子供自ら判断すること」です。自らICTの使い方を考え、判断していくことは、自らの学習方法を調整していくこと (自己調整力)につながります。その上で、「端末を活用した授業で、板書計画・ノート指導をどのようにするか考えること」が重要です。先生方からは「端末を活用すると、板書がおろそかになってしまう。」という悩みをよく聞きます。大事なことは、「何のために板書をしているのか？」を立ち止まって考えることです。また、授業の流れが見えてしまう「型

が決まっているワークシートから脱却することも主体的な学びにつながります。そして、一番重要なことは、「本時のまとめを自分（子供自身）の言葉でまとめること」です。教師が黒板に書いたまとめを書き写すだけでは、子供自身が「今日はこんなことを学んだ」と自覚することができず、教師主導である「教える授業」からの脱却にはなりません。「子供に委ねる」姿勢で授業改善を進め、学びの主体が教師から子供へと移り、子供が「学ぶ授業」に転換していくことを目指してください。

## 令和5年度 所長学校訪問・校長室訪問を終えて

【管理課】

5月16日（火）の八千代市立睦小学校、南高津小学校を皮切りにスタートした所長学校訪問・校長室訪問が、11月28日（火）の船橋市立七林小学校、二宮小学校をもって、すべて終了しました。今年度は所長学校訪問54校、校長室訪問54校の合計108校を訪問しました。訪問校の皆様には、事前の準備から当日の対応までご配慮をいただき、充実した訪問を実施することができました。「信頼される学校づくり」の実現のため、事前に提出していただいた「所長学校訪問資料」、「学校運営自己診断票」、「事前アンケート」をもとに学校の現状を把握し、校長先生方と実りある意見交換をさせていただきました。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことに伴い、マスクの着用が原則不要となったことで、子供たちや教職員の生き生きとした表情が多く見られました。

今年度、訪問校でお話した事務所からのお願いについて一部まとめました。参考にいただければ幸いです。

### ●人材育成について

初若年層の育成が急務です。初任者を含め、経験5年未満の教職員が非常に多い現状があります。授業の進め方、板書や発問の仕方などを具体的に丁寧に教えていく必要があります。そこで、主幹教諭や学年主任といった経験の豊富な先生方が実践を見せることで初若年層の育成に努めていただきたいと思います。

### ●学力向上について

全国学力・学習状況調査の結果について、小中ともに、概ね全国の平均正答率を上回っています。その一方で、「授業の内容はよく分かりますか」という問いに対して、否定的な回答をした児童生徒がいる傾向が見られました。授業を理解できていない児童生徒を見逃さないようにすることが大切です。具体的には、机間指導の際には赤ペンを持ち適宜指導するように心がけてほしいこと、児童生徒の提出物や掲示物等の誤字脱字については正しく直すようにしてほしいことをお願いしました。

### ●不祥事根絶について

県の教育委員会議で懲戒処分が決定すると、事務所から市教育委員会を通して、綱紀の肅正及び注意喚起の通知を各校にしています。必ず教職員に周知し、切実感や当事者意識を持たせるようにしてください。不祥事根絶のためには未然予防が鍵になります。職員間のコミュニケーションを大事にし、「チーム〇〇」という連帯感を高めてほしいとお願いしました。



### ●諸表簿点検について

週案や安全点検簿、保健日誌等を中心に点検しましたが、適正かつ確実に処理されていました。特に、週案については、時数管理や指導記録がしっかりと記載されていました。また、管理職のコメントが残されているものも多くありました。引き続き、学校組織の活性化、情報共有化のツールとして、有効に活用してほしいと願いました。

訪問を通じて、各校から貴重なご意見をうかがうとともに、学校や地域の実態に応じた取組をされていると実感することができました。来年度も「訪問を学校の健康診断」、「自分のステップアップのための良い機会」と捉えられるような訪問を実施してまいります。

「あきらめたら、そこで試合終了ですよ」。教育も同じです。子供たちは誰でもできるようになりたいと思っています。その子供たちの思いに応えるためにも、先生方が「これでいいや」「仕方がない」とあきらめないでください。「すべては子供たちのために」と教育活動に取り組んでいきましょう。

**あきらめない!**



## 管内永年勤続者表彰

11月8日(水)に葛南教育事務所にて、永年勤続者感謝状の贈呈が行われました。

この感謝状の贈呈は、モラルアッププロジェクト委員会答申(平成16年12月14日)を受け、管内の学校教育進展のために尽力された方々に対し、敬意を表するとともに、今後のさらなる活躍に向け、職員の士気の向上を図ることを目的に管内独自で実施しています。

今年度も、葛南教育事務所と葛南地区教育委員会連絡協議会より、管内で勤続30年を迎えられた教職員の皆様49名に竹内所長から感謝状を贈呈しました。事務所長から感謝状を直接お渡しするのは、4年ぶりでした。また、これまでは管内各市で個々に贈呈式を行っていましたが、今年度は管内5市の永年勤続者が一堂に集まり、各市教育委員会教育長に見届けていただきながらの贈呈式となりました。贈呈式では、主催者を代表して、竹内所長と市川市教育委員会 田中庸恵教育長から、永年にわたり千葉県教育に大きく貢献されたことに対して敬意と感謝の意が伝えられました。

今後も「UNIFY(ユニファイ)」を合言葉に、管内5市の教職員が一つになり、21世紀を担う子供たちの育成のために、より一層のご尽力をお願いします。

